日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧　　師　渡邊　義彦
協力牧師　松下　恭規

教 会 報

189 号 2018 年 9 月 30 日

〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂
1-31-19
電話：03-3717-3870
Fax：03-3717-3916

巻頭言

「主のみがほめたたえられますように」

――フィリピの信徒への手紙第４章９節――

牧師　渡邊　義彦

わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。　（新共同訳聖書）

三人のキリストの証人のことを思い起こしてみましょう。一人は、洗礼者ヨハネ、今一人は使徒ペトロ、そして、使徒パウロです。

ヨハネは、主イエスに先立ち進み、キリストの歩み進まれる道備えをしました。そして、洗礼者として罪無き方、キリストに洗礼を授けました。

ヨハネはヘロデ王と王妃ヘロディアの結婚を厳しく非難したために捕らえられてしまいます。ヨハネは牢獄で処刑を目前にしています。牢獄に捕われ、追い詰められて身も心も大きな重圧に押しつぶされそうな緊迫した中で弟子たちをキリストのもとに遣わします。ヨハネが主の元に弟子たちを送り尋ねさせるのは、あなたは本当にキリストであるかということでした。キリストに洗礼を授けたヨハネの信頼が、今、囚われの牢獄で揺らいでいます。死を目前にしてヨハネのキリストへの信頼が揺らいでいます。「あなたはキリストか、それとも、なお救い主を待たねばならないか。」

キリストはこの不安に答えて下さいます。「目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。」

信仰の目を開いて世界を見てみなさい。救いはもうはじまっている。福音は語られはじめている。信仰の耳を開いて聞いてみなさい。主は仰るのです。死を目前にして囚われの身となり恐れの中にある者に、主は語られます。恐れる必要はないと。

使徒ペトロは、最初の教会の指導者として立てられ、福音を、エルサレムからはじめて、地中海世界、各地へと運び伝道しました。キリストが召して下さり、人を漁る漁師としようと約束して下さったので、彼は網を、舟を捨ててキリストに従いました。あなたを人を漁る漁師としようとの約束は、主の言葉どおりになりました。ペトロに躓きがなかったわけではありません。ペトロは、主の十字架の下に留まることができませんでした。しかし、主の約束は確かです。主は決してペトロを手放すことも見捨てることもなさいませんでした。主の言葉のとおり、ペトロは伝道者、使徒としての生涯を全うします。

迫害の手が、生れたばかりの、歩みをはじめたばかりのキリスト教会に及びステファノが最初の殉教者となります。ヨハネの兄弟ヤコブも殉教し、ペトロも福音を宣べ伝えるゆえに捕えられ、鎖に繋がれて屈強な兵士の間に挟まれるようにして牢の一番奥深くに繋ぎ止められます。教会では、ペトロのために熱心な祈りをささげられます。ペトロがまさに処刑されようという前夜、兵士の間で眠っていたペトロを、天から

の光が急に照らしました。天使が導くままに、ペトロは鎖を解かれて兵士たちを残して、何重にも固く閉じられていた牢の扉を次々に開かれて、最後、町に通じる鉄の門を開かれて通りに出てきます。そこで、ペテロは我に返って気付くのです。

「今、初めて本当のことが分かった。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆のあらゆるもくろみから、わたしを救い出して下さったのだ。」

ここを読むとき、いつも思います。ここまで来て初めてわかることもあるのだということです。ペトロはこれまでいくつもの危機を経験してきたはずです。しかし危機を目前してなおわかること、そのようにして目開かれることがあるのだということです。

使徒パウロは、第二回の伝道旅行のとき、初めて地中海、エーゲ海を越えてヨーロッパに渡ります。ヨーロッパ最初の伝道地がフィリピです。一人の女性、リディアとの出会いがきっかけとなってフィリピ教会を建て上げます。

フィリピ滞在中、パウロも福音を宣べ伝え、町を混乱させているという理由で捕らえられ牢獄に囚われの身となります。共に伝道のために力を尽くしている同労者シラスも捕らえられて、二人は一番奥の牢に足枷をはめられて繋がれます。非人間的な劣悪な環境にあった牢獄で、しかし、パウロとシラスは深夜に至るまで賛美を歌い続けました。このような苦境で賛美を歌う二人の姿に主なる神への信頼を見る思いがします。主をほめたたえる賛美に牢獄全体の囚人が聞き入ります。

そのとき、突然、牢獄全体を揺るがすような大きな地震が起こり土台が歪み牢の戸がすべて開いてしまいます。看守は、暗がりの中、囚人がすべて逃げ出してしまったと思い込み責任を取って自害しようとします。しかし、パウロは、我々はすべてここにいる、逃げ出していないと、看守の自害を思い止まらせます。事実、囚人は皆、逃亡することなく、牢に留まっていました。

看守は、この事件に畏怖の思いを抱き、パウロに心からの思いをもって尋ねます。

「先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか。」

パウロは、これに答えます。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」

キリストの証人たちは、キリストに信頼することの絶大な力強さを語っています。信仰の先達たちは、キリストを信頼するゆえに、どのような境遇であろうとも喜び暮らすことを学びました。キリストを信頼し、信ずることで与えられる絶大な強さを学び、そして、なおいっそうキリストへの信頼に生きたのです。彼ら、彼女らは、ただ、主なる神だけをほめたたえることに生きました。ただ神だけをほめたたえました。神の栄光をほめたたえるに、何をもっても足りなく、欠け多いことを十分に知りながら、貧しいことを十分に承知しながら、それでも、ただお一人、神であられる主をほめたたえずにはいられなかったのです。

キリストを証しする者たちのつながりが教会の歴史です。キリストの憐れみによって、キリストが果たしてくださった救いに与って、教会につなげられた者たちがキリストを証ししてきたことが、教会の歴史です。わたしたちの教会も、同じ歴史の延長上、その最先端で教会建設を続けています。わたしたちにも、先達が生きてきた同じ道に生き得る道が開かれています。主が開き備えていてくださる、この道に、さらに一歩、歩みを進めてゆきましょう。

集会出席統計（月平均人数）

	2018年	
	7月	8月
主日礼拝	81.6	69.0
聖書と祈り会	15.3	−休会−
教会学校＊	117.2	94.3

＊保護者、教師を含む

（第1主日開催）	7月1日	8月5日
聖餐夕礼拝	9	9

わたしの聖句、わたしの讃美歌 １８

「私の聖句・私の讃美歌」

石岡　美典子（みのり）

エフェソの信徒への手紙 3 章 18～19 節
讃美歌 21-430 番「とびらの外に」

「アダはヤバルを産んだ。ヤバルは家畜を飼い天幕に住む者の先祖となった。その弟はユバルと言い、竪琴や笛を奏でる者すべての先祖となった。」―創世記 4:20～21―

7 年前の 2011 年、東神大夜間講座を受講した際、同期生と僅かな時期、このユバルという名で聖歌隊を組織して讃美歌を歌っていた。ユバルの母はアダ、父はレメクで、その祖父の祖父はエノクと言ってカインの息子ということが聖書に記されている。旧約聖書の天地創造物語の記述に続く時代にすでに竪琴や笛を奏でる者の先祖、そしてその人の名前まで銘記されていることを発見して驚かされた。

話は跳び時代は下って 1970 年代、民族音楽学・楽理の研究者に小泉文夫先生が大学におられた。私どもはその講義を直に受けることが出来たのだが、先生によれば音楽の起源は、①言語起源説、②信号起源説、③労働起源説、④性衝動起源説、⑤呪術起源説のうちのどれか、と教えられた。今になって考えると、音楽の始まりとは、その中のいくつかの要因（説）が時代・地域にて複合的に彼の地、彼の時の文化的背景と社会的・政治的出来事が絡み合い、反応し、生まれ、醸成され、発達や停滞を繰り返していったものではないか、と理解している。聖書の記述と後世の音楽学者の説・主張が混じり合って想像力が掻き立てられて楽しい空想の時間である。

さて、天地創造の場面（フレスコ画等でヒントを得れば）では先ずヨーゼフ・ハイドンの旋律がもとになった讃美歌 74 番（54 年版）が思い起こされる。（オラトリオ「天地創造」は演奏されることの多い人気の宗教曲＝聖譚曲で、2017 年スイスのルツェルンで行われた音楽祭での演奏画像はダイナミックで素晴らしかった（録画鑑賞）。詩編 19 編をテクストにしたこの曲の「果てしも知られぬあまつうなばら―（略）み恵みあまねき父なるみかみを」という歌詞は 54 年版讃美歌で馴染み深い。原曲の全曲を通じてソプラノにより歌われるガブリエルのアリアの中にも音型・リズムが頻出される。

その昔、三位一体の言葉の意味もつゆ知らない中学一年生になりたての私には音楽室での授業が思い出される懐かしくも大切な讃美歌である。あまつ、みいつ、ときわ、と文語体の響きを丸ごとみ恵みそのものとして身にまとった、とそんなふうに古希も間近に思う。同じく大自然の創造主なる神を賛美し、感謝を歌い上げる賛美として名高いのは、イングリッシュメロディーによる 90 番「ここも神のみくになれば」（詩編 104 編）がある。この曲は讃美歌 21 の 361 番（以下 21－〇〇番と表記）になって「この世はみなかみの世界」と分かりやすい言葉になっている。「あめつち（天地）」を「みな」としている。

女子のみの学校（私どもの母校）では校歌のようにしばしば日常的に歌われていたから、信仰の育まれた土壌のような讃美歌である。

同じように必ず毎朝守られていた礼拝で賛美した 30 番「あさかぜしずかにふきて」も、21－211 番に取り込まれていて懐かしい。 作曲者はバッハの「マタイ受難曲」を再び人々の音楽史によみがえらせることに力を尽くしたドイツロマン派のメンデルスゾーンである。驚いたことに作詞が奴隷解放運動の契機となった「アンクル・トムの小屋」を著したハリエット・ストウであることはあまり知られていない。21－211 番新訳 3 節では「とこよのあした」が「とこしえ朝」に、「わがたまめさむるとき」が「いのちにめさむるとき」に、「この世の朝よりきよく」

が「この世のうれいは去りて」に改変されている。心を奮い立たせて「神のみかおをあおぎみん」と歌うに相応しい歌詞になっていてみ恵みの応答として賛美するとき、大きく声を響かせることが出来る。

さて、私たちの信仰生活上には、これまで述べたように喜びに満ち、神の子として従順で感謝している時ばかりではない事態も当然のごとく生じている。むしろ反対の状態の時間が長く続く。孤独・絶望・厭世。一体、ヨブの物語の中で、或いはバビロン捕囚中の嘆きの歌に不平や不満のフレーズはないのだろうか？　探してみると詩編の中にはさらに刺激的で好戦的な嘆き・うめきがあるではないか。一例として、エレミヤの哀歌にも讃美歌に取り上げられた曲がある。詩編 137 編、哀歌 1：2，16。讃美歌 21＝164 番である。内容を見てみるとラトヴィアの民謡で歌われている。ところで信仰の未熟者である私（私達）は①不平をどのように表しているだろうか？②どのように表せばよいのか？

旧約聖書にさがしてみると、あれほどまでの生きづらさ、苦しみ・悩みが次のように記されている。出エジプト記 2：23－25 である。「イスラエルの人々は労働の故にうめき、叫んだ。労働のゆえに助けを求める彼らの叫び声は神に届いた。神はイスラエルの人々を顧み、御心に留められた。」―（この聖書個所は本年の伝道月間で大島力先生の選ばれた説教の個所である。）

私は（私達日本人は）自分が我慢すれば、との思いで、あまり感情的なことを表面には出さないできたことが多かったように思う。

でも「祈り」の中で神様との対話を許され、親しくみ言葉に聴く場面では「ひどい、何故？」が祈りの始まりであり、神は受けとめてくださり、嘆きの声は神に届くのである、ということを知らされた。更に神は私達のうめきに乗り込んで来てくださる、という。

このことと、1 月に母が天に召された後に想像を超えた難儀を抱えた時、わたしのうちで、又教会の皆様に祈って頂いたことのうちに感じたことがあった。聖霊が働いて下さったのだなあ、と思った。そのような状態の中で慰められたのが 21－430 番「とびらの外に」である。

丁度 7 月の聖書個所が主日礼拝にときあかされているエフェソの信徒への手紙 3 章 18，19 節「また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共にキリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ち溢れる豊かさのすべてにあずかりそれによって満たされるように」、とある。

母は 103 歳と 10 か月を生きたが、教会に足を運ぶことはなかった。でも今、私は既に天に召された者たちと賛美の歌によって交流出来ている感覚があり、大きな試練も何とか乗り越えられそうな気がしてきているのである。

最後に音信不通となっていた群れユバルが 7 年を経た今でも細々と活動を続けておられる便りを先日耳にし、感激を新たにした。

☆☆☆　教会の行事　☆☆☆

◆これからの予定

9 月 30 日（日）10:30～「高齢の方々に配慮した礼拝」
10 月 21 日（日）10:30～「子供と共に守る礼拝」（教会学校との合同礼拝）
12 月 2 日（日）待降節第 1 主日（アドヴェント）
12 月 23 日（日）10:30～降誕祭（クリスマス）礼拝
12 月 24 日（月）18:00～聖夜礼拝（クリスマスイブ礼拝）（＊開始時間は予定）

＜主の働き人・各会・各グループは今　３４＞

「教会学校 2018 年サマープログラムの報告」

教会学校校長　桝田　恒

教会学校を覚えてお祈り下さり感謝申し上げます。今年度教会学校の礼拝では「イエス・キリスト」についてルカによる福音書からイエスさまのみ業を学んでいます。いつもは幼稚科・小学科・ジュニアチャーチ（ＪＣ）の３科に分かれて礼拝を守っていますが、８月は３科合同で礼拝を守ります。酷暑の中、子どもたちは元気に教会に集い、共に礼拝を守り、み言葉の恵みに与りました。

各科の夏のプログラムをご報告いたします。

１. 幼稚科のディキャンプ

7 月 22 日（日）午後 1 時からディキャンプのスタートです。開会礼拝では渡邊先生からノアさんのお話をききました。

礼拝後は白グループのフルーツポンチ作りです。慣れない手つきで果物をカット。小さな子どもたちは庭のプールでまちにまった水遊び。牧師先生のシャワーに大喜びです。交代して白グループもプールへ、天気も良く大満足でした。

プールの後はおやつのフルーツポンチをいただいて、マグネットシアター「ノアの箱舟」を楽しみました。

9 閉会礼拝をしてディキャンプは終了、出席は 34 名、教師 7 名でした。

２. 丹沢サマーキャンプ

丹沢キャンプは 7 月 29 日（日）から 31 日（火）までの 3 日間、生徒 34 名、教師 9 名、計 43 名が参加。直前に東京神学大学の夏期伝道で柿ノ木坂教会へ派遣された坂井悠佳神学生も参加していただきよい交わりの時となりました。

キャンプのテーマは**「イエスさまといっしょに世界の果てにまで」**です。子どもたちには空想を膨らませるようなキャッチですが、教師たちは直ぐには分級の展開がまとまりません。教師会での手引きをもとに前進、準備を進めることが出来ました。

台風 12 号の襲来で、天気や道路状況の心配をしつつ教会へ。雨も上がり子どもたちは皆元気に礼拝へ集まってきました。ヤビツ峠から丹沢ホームまでの道も昼には通行止めが解除となり、教会員・保護者の皆さま、沢山の人たちと開会礼拝をしてキャンプが始まりました。

恒例の川遊び、マスつかみ、スイカ割り、夜のお楽しみ会と盛り沢山の予定もすべて行うことが出来、2 回の分級では各クラスが楽しく熱心に学び成果を発表。子どもたちみんなの心にイエスさまの働きが残りました。因みに各クラスのテーマは「善きサマリヤ人」「復活から昇天」「冒険」「ザアカイ」「放蕩息子」です。それぞれ劇をしたり、双六作成、紙芝居、クイズに展開して取り組みました。4 回の礼拝の箇所は次の通りです。どうぞご一緒に聖書をお開き下さい。

① 開会礼拝

「イエスさまの冒険―キリストの誕生」

（ルカによる福音書第 2 章 1～21 節）

② 朝の礼拝

「弟子たちの冒険－72 人の派遣、伝道報告」

（ルカによる福音書第 10 章 17～24 節）

③ 朝の礼拝

（ルカによる福音書第 24 章 13～35 節）
④　閉会礼拝
「わたしたちの冒険－地の果てに至るまでキリストの証人となる」（使徒言行録第 1 章 1～16 節）

３．ジュニアチャーチ夕涼み会

9 月 2 日（日）午後 5 時から夕涼み会がありました。早く集り食事の準備です。定番の焼きそば・たこ焼きがメインディッシュ。

聖餐夕礼拝に出席してスタート。はじめは生徒 1 人で静かなものでした。

そこへ 2 名が到着。生徒全員がベテル幼稚園の卒園生。幼稚園時代の話で大いに盛り上がりました。

子どもたちの中にページェントや卒園式の思い出がしっかりと残っていたのが印象的でした。

「かき氷」をお好みの味でいただき、主のお守りを祈って解散。

参加者は生徒 3 名，教師 6 名でした。

「シロアムの園報告会」

小川　塩子

今年も柿ノ木坂教会員で、ケニアでよいお働きをされている公文和子姉の報告会が、新生会といずみ会の主催で開かれました。以下にその概要をお知らせいたします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

シロアムの園の現状

2015 年「セラピーセンター」としての、ケニアの教会母体の活動とは別に医療教育事業としての「シロアムの園」が本格的に開始しました。

公文和子姉

2018 年にようやく NPO 登録が終了し、療育の他、サービスも行えるようになり、私が医師兼代表者となり、スタッフ 14 名で、延べ 72 名の子供達と日々の生活をしています。待機児が 100 名近くもいます。

今年は、「天地創造」をテーマに朝の集いやクラス活動を進めています。

（スクリーンに映し出されたのは、ケニアの最近の繁栄ぶりを感じる高層ビルの並ぶ街、自然の中の勇壮な動物たち、ファッショナブルな衣装の現地民族が、スマホを握っている様、スラムの屋根が並ぶ街・・、更にシロアムの園の施設の活動のシーン）

歩けなかった子供、何かを話そうと全身で表現する姿、食事をうまく取れるようになったり、感情を出すことが出来て、満面の笑顔を見せる「小さな変化」に寄り添うことが出来るようにと、細やかなプランや準備を心掛けています。

日本の農産物は、形や色の揃っていることを好む消費者と、それに沿った JA の規格品が店頭に並んでいますが、ケニアでは色や形や寸法もバラバラで誰もそれを気にしません。

（和子先生の比喩は、ケニアの市場の人参と日本のスーパーに並ぶニンジンの写真で、分かりやすく訴えていました。）

子供たちの持つそれぞれの賜物、笑顔、希望をどのように輝かせることが出来るか、そのことが一番大切な私達の役目であると信じています。

スタッフだけなく、育児に困難を覚え、愛情も希望も持てなかった保護者に対して、将来は神様からの賜物や個性を輝かすことに喜びを持つことが出来るようにと、協力と信頼とで意識改革をしていくことに取り組んでいます。

ケニアの現実は、公の教育制度から外れる障がい児もまだまだ多いです。貧困や知的レベル

の不足のまま園に通う子供達、誕生から成長過程で短命な一生を終える幼児らを目の前にし、最新医療器具の不足、それを扱える医師不足や障がい児を抱える保護者たちの生活の苦しさ等まだまだシロアムの園の課題は山積です。

「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか？本人ですか。それとも、両親ですか。」イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである(ヨハネによる福音書 9：2～3)

（公文和子医師誕生の基となった聖句でもあり、イエスがこの盲人を癒された池がシロアムという名前なのです。）

シロアムの園の今後

シロアムの園は NPO 取得ができたものの、その経営は個人の献金で成り立っています。

スタッフの給料は来年滞りなく支払えるだろうか？　施設の環境をさらに拡張し整えるべく経済成長著しいケニアでの土地の購入は、切迫した要求です。これらの計画の具体的成果を私はあと 10 年をめどに頑張りたいと考えています。ケニアの情勢を世界中の皆様にもっと理解していただき、知っていただきたいのです。

子供たちの居場所や医療活動がもっと充実し、神様が創造してくださった子供たちの笑顔あふれる宝を輝かすべく頑張っています。

眠れないほどの不安に襲われることもしばしばですが、私たちだけが頑張ることではないのです。

何よりもケニア政府がこれらの制度・政策に対してケニア自身の問題と本格的に取り組み、課題にしてくれることを目標にしています。私自身、医師資格を持つ女性としてだけでなく、一事業主、団体の代表としての高い目標と同時に、現実を目の前にして苦悩と格闘を背負っています。柿ノ木坂で養われ、皆様に祈っていただけることを心より感謝しています。どうぞ、祈りの内にお覚え下さり、ご支援を引き続きいただけますように！(閉会祈祷は公文和子先生)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

今から 50 年ほど前、公文ご一家が教会に加わられ、親しく交わりが始まりました。

ベテルの前身の幼児グループ時代の園児から、CS の生徒、そして CS 教師としての奉仕者へ共に養われてきました。お利口なお嬢さんであったものの、ちょっとのんびり屋さんで、うっかり者の和ちゃん！

シロアムの園の代表者になられ、報告会にいらした和子医師に「公文先生！」というと「いやだ～塩子おばちゃん！」と、つい故郷のおばさんに姪っ子が甘えるようなしぐさをされました。

猫の死骸を見つけると、気持ち悪い！でなく、ちらばった臓器に関心を示すような和ちゃん！

北大医学部時代も、僻地での医療活動をされ、貧しい村民からは治療費の代わりに、農産物をもらったと嬉しそうに話し、将来の夢を聞いた覚えもあります。

医師となって世界を股に、ケニアに渡られてからそのご苦労や恐怖、悲しみや不安を耳にするたびに、つい海外に住む娘に祈るしかない親の気持ちにもなりましたが、反面、これこそクリスチャン！

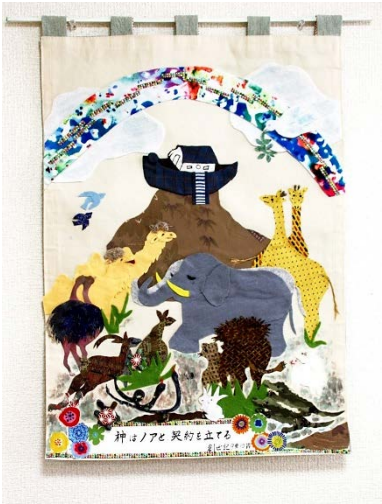
信仰による賜物がケニアの子供たちに生かされるために、前を向き続けていく姿を誇らしく、尊敬するばかりとなっています。

「私は賜物コーデネーター」と自らのミッションを口にしてその生涯をささげる覚悟の和ちゃんに涙です。

ぜひ教会一丸となって応援し支えていただきたいと願うものです。

神様が何よりも“宝を輝かし、賜物を活かす和ちゃん”を祝福してくださいますようにと祈ります。

皆様からの支援金など引き続き、新生会取り扱いで受け付けております。また、新生会製作の「ノアの契約」を絵葉書にしました。どうかご活用下さい。



今月のメッセージ
――ホームページページ巻頭言――

ホームページには多くの情報が掲載されています。
ぜひご覧ください
http://kakinokizaka-church.com

イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。（新共同訳聖書・ルカによる福音書第24章29～31節）

健康マージャンというのが盛況だと聞きました。日中に、賭け無し、酒無し、タバコ無しのマージャンで、脳を活性化すると評判なのだそうです。わたしは残念ながらマージャンはできないのですが、学生時代、友人たちが、徹夜でタバコの煙の中でジャラジャラ、ジャラジャラやっていたのを覚えています。その時代のマージャンを知っていた家内は（彼女もできないのですが）、暗がりで卓を囲んでいる彼らは、青空の下で高原の原っぱにでも雀卓を運び出してやったらいいのにね、と言っていましたから、その頃から健康マージャンを提唱していたとも言えます。健康な卓の囲み方ならなおさらなのかもしれませんが、不健康な卓の囲み方でも、もちろん勝負に真剣であっても、そこでの会話や、やり取りがおもしろそうであったことは、卓を囲めない者にも何某かわかりました。

卓を囲むということでは、我が家の食卓に家族全員が揃うことは少しずつ難しくなってきました。大学生、社会人となるとそれぞれに優先しなくてはならない予定があります。子供たちが小さかったときには、そして高校生ぐらいまででしょうか、我が家では少なくとも夕食には家族全員が食卓に揃うことがほとんどでした。父親の仕事が職住接近ですから可能だったのでしょう。とても大切な日々だったと思います。自分も子供であった頃の家族が揃う食卓をいくつも覚えています。食卓は、単に栄養を摂取することに留まらず、交わりの場であり、価値観や良心を教えられ教育してもらう大切な場所、共有してゆくところであったように思います。我が家の子供たちも口うるさい父親だと思いはじめているのでしょう。そうであれば、そろそろ独立して自分の食卓を用意する頃を迎えているのかもしれません。この準備が整うまで少ない機会ながら家族が皆揃う食卓を大切にしたいと思います。

教会には一つの大切な食卓が据えられています。聖餐卓と呼びます。教会の中心はどこにあるかと問われれば、この食卓が据えられているところです、と答えます。すべてのキリスト者がこの食卓を目指して集まって来ます。一つ一つの教会に据えられている聖餐卓は小さなものです。しかし、この小さな食卓は、キリストが終わりの日に再び来てくださるときには、すべてのキリスト者たちが集められることになる大きな食卓に繋がっている、とわたしたちは信じています。この大きな聖餐卓における祝い食卓が開かれることを、キリストが約束してくださったからです。卓を囲む、食卓を囲む、聖餐卓を囲む。このテーブルの周りに、人と人、人と神の交わりが創り出されます。

（牧師　渡邊　義彦）

―――編集後記―――

・とりわけ暑く、また台風の多かった夏。しかし、CSの子供たちにとっては実りあるサマープログラムが持てたことが、報告から伺えます。子供たちが、次代の主の教会を担う人に育っていくことを祈ります。

・遠いアフリカの地で尊い活躍を続けている姉妹の話を伺いました。よいお働きを神が祝してくださいますように。そして、私たちが祈りに併せて、様々な形で支えていくことができますように。

・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。

（編集委員長　井澤浩一）

集会案内

主日礼拝　日曜日　午前10時30分
聖餐夕礼拝　第1日曜日　午後5時
入門講座　日曜日　午前9時30分
教会学校　日曜日　午前9時
（幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ）
＊ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会　水曜日午前10時、午後7時30分

日本基督教団　柿ノ木坂教会
〒152-0022　東京都目黒区柿の木坂1-31-19
電話　03-3717-3870（教会・牧師館）
03-3723-3870（ベテル幼稚園）
牧師　渡邊　義彦
協力牧師　松下　恭規